G7 サイバー・エキスパート・グループによる 2026 年クロスボーダー協調演習実施（仮訳）

G7 サイバー・エキスパート・グループ（Cyber Expert Group：CEG）は、2026 年 5 月 18 日、「2026 年クロスボーダー協調演習（Cross Border Coordination Exercise: CBCE）」を成功裏に終了した。本演習は、G7 の金融セクター全体のサイバー・レジリエンス強化に向けた同グループの継続的な取組みを示すものである。こうしたシミュレーションの頻度と一貫性を高めるための長期的な演習戦略が導入され、これにより、全ての G7 各国・地域における備えの強化につながる。

本年の演習は、金融セクターに影響を及ぼす大規模なクロスボーダー・サイバー・インシデントを想定し、G7 金融当局による効果的な連携及びコミュニケーション能力の強化を目的として 2024 年に実施された CBCE の成果を踏まえて行われた。本年の演習では、これまでのシミュレーションやワークショップを通じて特定された、インシデント対応、復旧、危機時のコミュニケーションに焦点を当てた重要な改善点を検証し、集団的な備えをさらに高度化させた。本演習では、G7 金融当局間の連携を強化するために G7 各国・地域にまたがる大規模サイバー攻撃を想定したシナリオが使用され、財務省、中央銀行、金融監督当局及び市場監督当局が参加し、関係当局間の円滑な連携と一体的な対応が促進された。

これらの演習を通じて、G7 サイバー・エキスパート・グループは、金融セクターのサイバー脅威への耐性を強化するとともに、G7 各国・地域における潜在的な混乱の軽減を目指している。イングランド銀行の金融政策担当副総裁、クレア・ロンバルデッリ氏は次のように述べた。「我々の金融システム、およびそこで利用される技術は国際的なものである。我々のシステムに対するサイバー攻撃による混乱は国境を越えて広がる可能性があるため、国際的な連携による対応が不可欠である。我々は、危機が発生した際に共同で対応するための適切なツールとリソースを確保しなければならない。G7 サイバー・エキスパート・グループが、我々の共通の対応能力を構築するための取組みを行っていることを歓迎する。」

この取組みにより、金融当局は、サイバー・インシデントへの効果的な対応に必要となる運用面及び戦略面の要素についてさらに整理・統合を進めることが可能になる。

相互接続性が一層高まる世界の中で、クロスボーダーでの連携、インシデント対応の準備、そしてタイムリーな情報共有は、引続き G7 の重要な優先課題である。G7 サイバー・エキスパート・グループは、国際金融システムの安定性および信頼性を確保

するため、潜在的なサイバー脅威への対応と連携を進めていく。

「サイバー脅威は国境を越えたものであり、我々の対応もまたそうでなくてはなければならない」と、フランシス・ブルック米財務省次官補は述べた。「G7 によるクロスボーダー協調演習は、世界の金融システムに影響を及ぼしうるサイバー・インシデントに対応する我々の集団的な能力を強化するものである。米国が G7 議長国就任の準備を進める中、米国財務省は、G7 サイバー・エキスパート・グループを通じて実践的な協力を深化させ、より安全で強靭な世界の金融システムを構築していくことを期待している。」

G7 サイバー・エキスパート・グループについて

G7 サイバー・エキスパート・グループは、G7 各国・地域におけるサイバーセキュリティ政策および戦略の連携・調整を担当している。その使命は、準備態勢の強化、脅威情勢に関する共通認識の確立、及びリスク軽減に向けた統一的なアプローチの推進を通じて、金融セクターのサイバー・レジリエンスを高めることである。

最近の主な公表資料

- AI 及びサイバーセキュリティに関するステートメント（2025 年）
- 再接続枠組みのベストプラクティス（2025 年）
- 金融セクターにおける耐量子計算機暗号への移行に向けた協調的なロードマップの推進に関するステートメント（2026 年）

G7サイバー・エキスパート・グループ及び公表物に関するさらなる情報はこちら。